



2025年1月17日

報道関係者各位

慶應義塾大学

慶應義塾ミュージアム・コモنزの新たな展覧会シリーズ

「ふとした点景 —— 岡崎和郎」 開催（1/9～2/7）

慶應義塾ミュージアム・コモنز (KeMCo) では、美術作品や学術資料、あるいはさまざまなオブジェクトをひとつの展示台で紹介する新たな展覧会シリーズ「ふとした点景」をスタートします。本シリーズは、通常の展覧会とは異なる形で大学のコレクションや美術作品、学術資料に光を当てていく新たな試みです。

第一回は、現代美術作家・岡崎和郎の「御物補遺（ぎよぶつほい）」作品を2025年に四期に分けてご紹介します。ぜひ、KeMCoの日常空間に現れるオブジェクトとの出会いをお楽しみください。

1. 基本情報

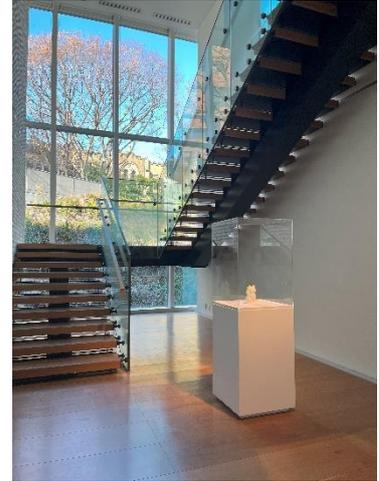
- 会期： 2025年にKeMCoで開催する展覧会会期にあわせて四期に分けて開催
第一期：2025年1月9日（木）～2月7日（金）（土日祝休館）
特別開館：1月18日（土）、2月1日（土）
臨時休館：1月20日（月）、2月3日（月）
【同時開催】KeMCo新春展2025へびの憩う空き地
[今後の予定]
第二期：3月17日（月）～5月16日（金）
第三期：6月3日（火）～8月6日（水）予定
第四期：10月～12月予定
- 会場： 慶應義塾ミュージアム・コモنز展示室（三田キャンパス 東別館階段踊り場）
開館時間： 11:00～18:00
入場： 無料、事前予約不要
詳細： <https://kemco.keio.ac.jp/all-post/20241219/>
※ 最新情報はウェブサイトをご確認ください。

2. 概要

慶應義塾ミュージアム・コモنز (KeMCo) の新しい展覧会シリーズ「ふとした点景」は、展示室で行われる展覧会だけではお見せしきれない、大学のコレクションや美術作品、学術資料に光を当てる企画です。

会場は、屋外の風景に開けた階段踊り場のスペース。「ふとした点景」とは階段の踊り場に展示されたオブジェクトと、それを含みこむKeMCoの吹き抜け空間の景色のことを指しています。展示台の上に現れるのは美術作品のこともあれば、学術資料や何かの道具ということもあるでしょう。ぜひ、KeMCoという場所で過ごすなかで作品や資料とのふとした出会いをお楽しみください。

シリーズの第一回は、現代美術作家・岡崎和郎の「御物補遺（ぎよぶつほい）」作品を展示します。1960年代よりオブジェをめぐる作品を制作してきた岡崎の仕事、2025年の1年間にKeMCoで開催する展覧会に合わせ、四期に分けてご紹介します。



岡崎和郎（1930–2022）

岡山県岡山市生まれ。早稲田大学で美術史を学ぶ。1958年より読売アンデパンダン展に出品し、作家としての活動をはじめ。初期のオブジェでは「内部」を起点に、外と内、表と裏、虚と実をめぐる問いかけを示し、身体の痕跡といった人間全般へと対象を広げた。1963年より、部分を通して全体を見通す造形思想「御物補遺（ぎよぶつほい）」を確立し、生涯にわたり多彩な制作を行った。倉敷市立美術館（1997年）、奈義町現代美術館（2001年）、神奈川県立近代美術館 鎌倉（2010年）、千葉市美術館（2016年）、北九州市立美術館（2016-2017年）など数多くの個展を開催。

3. 会場案内

会場：慶應義塾ミュージアム・コモンズ

住所：〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

慶應義塾大学三田キャンパス 東別館

交通アクセス：田町駅（JR山手線／JR京浜東北線）徒歩8分

三田駅（都営地下鉄浅草線／都営地下鉄三田線）徒歩7分

赤羽橋駅（都営地下鉄大江戸線）徒歩8分



4. 主催・運営

主催：慶應義塾ミュージアム・コモンズ、YOKOTA TOKYO

協力：特定非営利活動法人 Japan Cultural Research Institute

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、各社教育部、文化部等に送信させていただいております。

本発表資料のお問い合わせ先

慶應義塾広報室（担当：寺西）

TEL：03-5427-1541 FAX：03-5441-7640

Email：m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>